

支援学校の児童 2人に食農教育

神奈川・JA
相模原市

【神奈川・相模原】

JA相模原市は7月上旬、地域貢献活動の一環で、JA営農センターに神奈川県立相模原中央支援学校小学部、視覚・聴覚障害教育部門の5年生2人を受け入れ、食農教育を行った。市内の農業に触れる機会と「ふゆ」とともに、農業の楽しさや食べ物大切さを感じてもらうため開いた。

職員は、トウモロコシの収穫や触って答え

る野菜当てクイズ、育苗ハウスの暑さ体験、トラクターの試乗、畑の土の温度をはだして感じてみようなど、児童の個性に考慮した、五感を使って楽しめる盛りだくさんの内容を企画し、農業の楽しさを伝えた。

児童は「トウモロコ

シは虫が入るとへこんでしまうのが感触で分かったし、ハウスはとっても暑くて大変だなと思った。野菜作りの楽しさと大変さの両方を感じた」と話した。

JA営農支援課の篠

崎雅人主任は「色々な経験をしてもらいたいと思い、ハンディがあっても楽しめる企画を

考えた。子どもたちが農業の楽しさを感じてくれたらうれしい」と話した。



感触で野菜当てクイズをする篠崎主任と児童(神奈川県相模原市で)